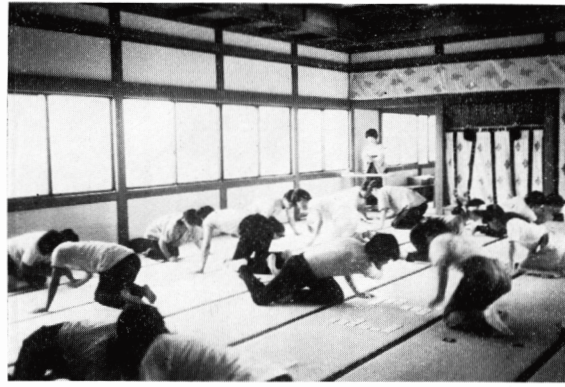


第十一回宗像大社 小倉百人一首かるた大会

北野律子クインが初優勝



優勝 北野律子(奈良県)
二位 鈴木 靖司(慶応大)
三位 田畑 謙子(葉集)
柴田 誠子(福岡中)
中央会

△B級(二段)
優勝 白井 純宏(熊本大)
二位 種村 啓介(熊本大)
三位 西川 一弥(香川大)
鶴野 友二(熊本大)
高

△C級(初段)
優勝 野坂 千晶(福岡大)
二位 後藤 輝彦(福岡大)
三位 長坂 浩司(九州大)

△D級 一般の部
優勝 池田 雅子(行橋市)
二位 黒木由美子(宗像市)
三位 木村千恵子(宗像市)
井上サチ子(大分県)

△E級 高校の部
優勝 柴田真矢子(修徳館)
二位 松尾 晃治(福岡高)
三位 竹崎 博樹(熊本高)
中河原千香(筑紫女)
学園高

△F級
優勝 山下 伸子(筑紫女)
二位 原口 岳士(和自白)
三位 片瀬 亮子(筑紫女)
佐藤 充弘(福岡中)
門岡 大輔(日佐中)
園子(筑紫女)

△G級
優勝 前田 美奈子(目の)
二位 里西小・今泉修一
(須恵あかね会)
田川 祐子(美和台)
小・藤田 昌子
黒崎中・竹田 紫乃(須恵あかね会)

中牟田佳英(筑紫女 学園高)
川津 哲同(福岡中 学園中)
小川 卓己(美都中)
松本 真美(美和台 小)
川口美代子(美和台 小)
三浦 真澄(益田小 小)
三浦 直博(益田小 小)
藤田美奈子(鳴水小 小)
吉武 泉(須恵あかね会)
沢江 弘幸(益田小 小)
秋元 綾子(須恵あかね会)

田久 立花 勇雄
名古屋 野崎 傳三
忠魂碑に刻める名前こそぞ
れに幻き頃の顔の額ちくる
大鳥 屋形とみえ
植物といえども心通ふがに
密蜂一つ花に動かす
原町 八波 五月
乾反りたる泰山本の落葉掃
き燃せばばりばり淋しき音
す
鐘崎 安永 久子
子と吾と戯(き)れしも香
か砂渚埋めたてられて礎の
香もなし
福間 中村 勇
店裏の狭き事務所に頼まれ
し履歴書もて主人を待ち
ぬ
池田 小田 イセ
大雪に折れ裂けたりし杉群
の阿修羅のごときをわが
ゆ
福間 清原 絹代
風邪病みて久し朝をブラ
ッシの通らぬまでに髪のか
たる
深田 中野 節子
今日よりは二週間置きを通
院となる緑内障の危機脱し
たり
田熊 丸九 一郎
また来ると云ひて別れし君
なりき生きて逢ふ日を永久
に失ふ
香椎 桜井 ツ子
根付きたる朝顔苗の切られ
をり土に届みて夜露虫を探
す
津屋崎 山口 タキ
深緑の匂い漂う菖蒲園色さ
まさまに咲き盛る
武丸 立石ろせ乃
老いたれば煙の管理も叶は
ざり忽ちはびる泡立草の
たゞ一羽梅園のほれまを鳥
とふ美事水平羽搏きもせず
池田 小田しめめ
手榴弾に身を砕かれし兄の
忌は思い出持て又巡り来
ぬ

真夏を思わせるような暑
い日々が続いた。六月七
十四日の両日、第十一回宗
像大社小倉百人一首かるた
大会(主催 宗像大社、協
力 九州かるた協会、後援
 玄海町教育委員会、全日
本かるた協会、フクニ子新
聞社、FBS福岡放送、難
波湯会、ひよろ会)が、当
大社清閑殿、斎庭、儀式殿
の各会場に於て開催され、
九州各県はもとより、全国
各地より約四百名が参加
し、両日共終日熱戦が展開さ
れた。
今大会は、これまでの大
会に較べて参加者が最高を
数えると共に、A級(二段
以上)には、クインの北
野律子十六段、全日本かる
た協会副会長山下義八段、前
年度覇者の田畑五段、全
日本選手権覇者の鶴田五段を
始めとする実力者が多数参
加し、手に汗握る熱戦が繰り
広げられた。

優勝戦は北野クインと
慶応たるたの鈴木五段と
の対戦となり、北野クイ
ンが実力を発揮し、念願の
初優勝を飾った。
△今大会に初出場した、
熊本西高、垢田中、美都
中、益田小などの遠来組が
大健闘も大会を大いに盛り
上げた。
当大社は、当初より「
和歌の心」を通じて我々古
来の精神と伝統文化を、一
人でも多くの人に認識して
もらうと共に青少年の情操
教育の一環として本大会を
開催して来たが、回を重ね
るにつれてその規模、内容共
に全国でも認められる大会
にまで成長した。今後、本
大会の趣旨に添った大会運
営を心懸けることが、本大
会の発展に繋がるものと痛
感している。

尚各級の成績は次の通り
である。

去る七月三日より五日ま
での三日間、毎年春の例
大祭等に巫女舞として奉納
される「浦安の舞」の温習
やかに、講師の叱声も
会が「浦安の舞」の第一人
者で日本音楽協会々長の多
静子先生を講師として迎
え、今年も行われ。

この「浦安の舞」は、静
かな動きの中に優雅な気品
を表現しなげはならぬ
や、甚重な舞であると共に
指導の厳しきには神界で
も定評のある先生だけに、現
代的な巫女一同は、初日から
緊張の連続で、講師の叱声
が飛びたつに五体を硬直さ
せていた。
温習会は、受講した巫女
達が一日の練習を終了し
た時には足腰が痛いと思
え、しかし多先生の懇
度の温習会

切丁寧な御指導により、巫
女達の舞の手振りが、日
経につれスムーズに、軽
やかに、講師の叱声も
当初に較べると少なく、な
いただけるまでになった。
最終日には総仕上げとし
て、装束を付
けての練習が
行われ、初日
の巫女の舞姿
はと雲泥の差
があった。
受講した巫
女連も、ふた
りの練習不足
の為、何度も
同じ所を注意
され、多先生
も頭も悩ませ
られたことと思
います。此
度の温習会

暑中御見舞申し上げます

自由ヶ丘支店
支店長 久田敏雄
宗像市自由ヶ丘二丁目七
TEL(九四)三三五一

日里支店
支店長 黒木泰弘
宗像市日里一丁目六〇
TEL(九四)三六二八

福間支店
支店長 崎田博隆
福間町大和町二七三
TEL(九四)四二二二

赤間支店
支店長 久田敏雄
宗○市大字土穴三九七
TEL(九四)三三五五

宗像支店
支店長 平野武光
宗像市大字東郷九一八
TEL(九四)三六一〇

福岡支店
支店長 今林龜治
福間町二七二六
TEL(九四)四二二四

赤間支店
支店長 平塚武義
宗像市大字土穴三八八
TEL(九四)三三二二

自由ヶ丘支店
支店長 久田敏雄
宗像市自由ヶ丘二丁目七
TEL(九四)三三五一

日里支店
支店長 黒木泰弘
宗像市日里一丁目六〇
TEL(九四)三六二八

福間支店
支店長 崎田博隆
福間町大和町二七三
TEL(九四)四二二二

赤間支店
支店長 久田敏雄
宗○市大字土穴三九七
TEL(九四)三三五五

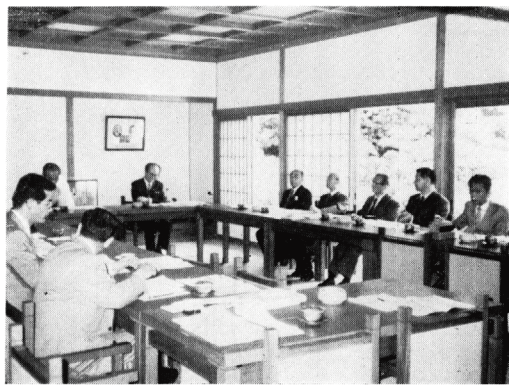
宗像支店
支店長 平野武光
宗像市大字東郷九一八
TEL(九四)三六一〇

福岡支店
支店長 今林龜治
福間町二七二六
TEL(九四)四二二四

赤間支店
支店長 平塚武義
宗像市大字土穴三八八
TEL(九四)三三二二

式内社顕彰会 九州支部総会開催

二代目支部長に養父宮司就任



六月の若葉薫る十日、式内社顕彰会九州支部総会が当大社勸使館に於て、支部員十三神社の出席のもと開催された。

式内社顕彰会九州支部は、昭和六十一年十二月に結成され、昨年は巻帙・対馬支部長巡行を行った折に総会を開催した。正式に事務局神社で行う総会は今年が初めてである。

午後二時、正式参拝を行い、会場の勸使館に入る。一年一度の再会に話しあひ、会場は和気あいあいの中で総会は二時三〇分より開始した。

事務局より開会が告げられ資料にもつき進行し、当大社養父宮司が挨拶に立ち、九州支部結成より葦津に開始した。

好天に恵まれた当日午前八時、全員揃いの法被に身をつみ旅館を発ち、約一時間て神領民集会所へ到着した。定刻の午前十時、いよいよ神事斎行の運びとなった。

この日は、三台の曳車(ひきぐるま)が用意され我々は二番車の奉仕となった。二番車には我々他、十数団体が曳綱(ひきづな)をより「エンヤ」の掛け声も高らかに神事は開始された。

外宮迄の道中約三kmを約二時間近くをかけ、ゆっくゆっくと進み、外宮鳥居へ到着した。伊勢神宮御祭所より神事奉仕のねがひの言葉を受く。奉仕団は各々散会し、おおせち部より奉曳団青年木遣り部の方々に、お木曳きの時に唄われる木遣唄(きやりうた)の指導を受

ける六月七日、福岡県神道青年会の主催による「お木曳き行事」奉仕団(県内神社関係者総勢三十名に、当大社より二名が参加した)。

第六十一回神宮式年遷宮 お木曳き行事に参加して

去る六月七日、福岡県神道青年会の主催による「お木曳き行事」奉仕団(県内神社関係者総勢三十名に、当大社より二名が参加した)。

前支部長の逝去等、本日総会に至る経過を報告、続いて出席者全員が自己紹介を行った。

又上杉千郷常任理事より式内社顕彰会の成立と、他支部の活動状況等の報告がなされ、議事に入った。

座長に養父宮司が選出され、審議に入り、支部長の選任について討議された。席上上杉理事より、初代葦津支部長選任の経過から本日までの九州支部の活動につき説明があり、葦津支部長として、事務局として活躍された養父宮司に支部長をお願いしたいとの提案がなされ、全会員の賛成に

より、養父宮司が選任された。当宮司もこれを受け、この二代目支部長は養父宮司に決定した。

続いて、事務局より、支部会員三十六名の神社・個人名、並びに会計報告を行い総会を終了した。

約五分間の休憩のあと、別府大学文学部助教授の伊藤勇人氏による「九州の式内社について」と題した講演が行われた。

伊藤氏は、顕彰会の個人会員でもある関係上、講演内容も支部に關係深き神社を例題として講演された。会員にも理解しやすく、いにしへの学生の日々を思い出した。

日本海々戦の大勝利を記念して、毎年五月二十七日に斎行される、沖津宮現地大祭に参列された帆足宗次(ノ五)が日本海々戦連合艦隊旗艦「三笠」並びに戦艦「霧島」の模型を製作、五月二十五日当大社に参拝され奉納された。

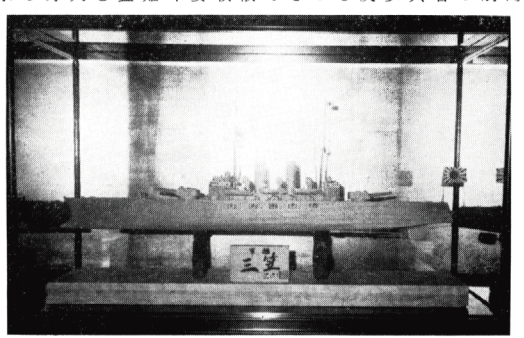
帆足氏は宗像郡安海町町長の出身で、大東亜戦争に帝國海軍々人として志願、戦艦「霧島」に乗り組み幾多の戦闘に参加した。「霧島」はソロモン海々戦に於て沈没したが、氏はその際、

軍艦「三笠」・戦艦「霧島」の模型を奉納

別府市帆足宗次氏謹作

日本海々戦の大勝利を記念して、毎年五月二十七日に斎行される、沖津宮現地大祭に参列された帆足宗次(ノ五)が日本海々戦連合艦隊旗艦「三笠」並びに戦艦「霧島」の模型を製作、五月二十五日当大社に参拝され奉納された。

帆足氏は宗像郡安海町町長の出身で、大東亜戦争に帝國海軍々人として志願、戦艦「霧島」に乗り組み幾多の戦闘に参加した。「霧島」はソロモン海々戦に於て沈没したが、氏はその際、



日本海々戦の大勝利を記念して、毎年五月二十七日に斎行される、沖津宮現地大祭に参列された帆足宗次(ノ五)が日本海々戦連合艦隊旗艦「三笠」並びに戦艦「霧島」の模型を製作、五月二十五日当大社に参拝され奉納された。

こと、二十一年に一度の盛大な神事に微力をながお手伝いできたことを、有難く思うとともに、来る昭和六十八年秋に斎行される御遷宮は盛大に催されるであろう、この日本国における一大神事を契機に、現在失われつつある日本民族の心や自覚等々再び考えてみてはと思いつつ、第六十一回式年遷宮が滞りなく斎行される様相を念す次第である(藤川記)

今回奉納された模型は、木製で船体長六十三センチ、ケース入りの立派なもので、氏が奮成沐浴して戦没者慰霊の心をこめて製作されたものである。軍

なごらの気分を講演を聞きながら四時三〇分に終了し、午後五時全員マイクログラスにて、会場を活魚料理で知られる神楽の「みなと荘」にうつし、懇親会へと向った。

六月一日 月次祭
六月二日 宗像警察署長安村隆司氏外十二名参拝
速捕術必勝祈願祭斎行
六月三日 カートン大東洋学部教授フルブライト研究員バードウェル・

スミス氏・シカゴ大文学部博士課程大谷大聡 講生エリザベス・ハリソン氏参拝
六月四日 宗像大社責任役員会議
六月六日 安海町老人クラブ 予約定章取作業奉仕
六月七日 第十一回宗像大社小倉百人一首かるた大会
米子市佐々木恵美子氏 外八十名参拝
小城羽衣会森氏外参拝
六月八日 (社) 宗像青年会議所例会
六月九日 国学院大学四十六期生福岡県神社庁副庁長宮原昌勝氏外十四名参拝
六月十日 式内社顕彰会九州支部総会
六月十二日 建造物調査官 村田氏・奥文化課中矢氏来社
六月十三日 宗像大社文書編纂刊行委員会於出光美術館(十四日迄)
六月十四日 第十一回宗像大社小倉百人一首かるた大会
徳山旭興産十四名参拝
六月十五日 月次祭
宗像郡遺族会役員会議
六月十六日 第七管区海上保安本部長土屋彬氏・福岡海上保安部長博多港長後藤隆三氏来社
六月十七日 ハワイ大学客員教授アジア太平洋地域研究センターオリヴァー・ストットラー氏
西日本短大助教服巻進一氏来社
六月二十三日 法務事務官 伊澤仁氏外四名来社
六月二十四日 出光興産(株)福岡支店総務課長奈良晴氏参拝
六月二十六日 出光興産(株)福岡支店副支店長上月文永氏参拝
井上修氏
新任挨拶の為来社
六月三十日 アポロラービ(株)福岡営業所長小方正義氏参拝
関山茂氏
新任挨拶の為来社

社務日誌抄

六月一日 月次祭
六月二日 宗像警察署長安村隆司氏外十二名参拝
速捕術必勝祈願祭斎行
六月三日 カートン大東洋学部教授フルブライト研究員バードウェル・

福岡相互銀行

日の里支店
支店長 佐伯利恭
宗像市日の里一丁目二九八
TEL (094) 367676

赤間支店
支店長 宮永敏光
宗像市大字土穴字前田三〇三
TEL (094) 331334

正金相互銀行

自由ヶ丘支店
支店長 村田達興
宗像市自由ヶ丘五九七五一一
TEL (094) 331332

宗像農業協同組合

組合長理事 安部照生
宗像市大字東郷六一一一
TEL (094) 361411

暑中御見舞申し上げます

福岡中央信用組合

宗像支店
支店長 桜井薫
宗像市大字東郷九四四一一
TEL (094) 361215

宗像大社歌会
俳句作品集(元)

名古屋 野崎 傳三
 賦儀の西瓜を三至もてあま
 す
 鐘 崎 岩瀬 辰夫
 身嗜み軽く涼しく衣更へ
 福 間 広渡 寿軒
 蔭に生え影に下されて毒下
 し
 福岡中央 力丸 玄風
 疾風(はやて) 来て雲に雨
 意あり走り梅雨
 田 熊 安部 ゆき
 風薫る交通整理の笛響く
 津屋崎 西住三郎
 一つ飲けまた酒の飲けて梅
 雨寒し
 日の里 花田いつえ
 走り根に日傘たたみて参拜
 す
 田 熊 力丸 一郎
 田熊機に男一人のリズムあ
 り
 藤原市 井上 玄洋
 浜に立ちサーファー動かす
 梅雨風
 池 田 小田しめの
 兄の忌や好物なりし加玉を
 もむ

(続)



19

海漂器(山陰海岸へ)

いししいただし



●水野裕氏は「古代の出雲 多いのは、東日本地域の現
 在(出雲人の形質的特質) 象としながらも、「出雲に
 で血液型A型が出雲地方に 影響をおよぼしたA型人

種は二つの系統が考えられ
 た。より古く出雲に混入し
 たもの、主として島根半
 島沿岸に渡来した南支那の
 インドチャイニーズ系の民
 族であり、それよりもや
 のちになつて渡来したの
 は、南朝鮮の韓民族、特に
 その東部の新羅系民族であ
 ったと思われる。これら
 二系統の民族は、血液型
 上ではA型分布率のきわめ
 て高いA型人種に属し、南
 鮮東部と出雲とは日本海を
 はさんで、ともにA型率の
 高い民族が対峙しているの
 とは、両者の交流を考えるこ
 とは、まことに自然な状態
 を示している」と述べてい
 る。

●朝鮮半島からの人や文化
 の渡来は、大きく二つに分
 けられるようで、半島南
 部、対馬、豊岐、北部九州
 と島根といつ、もう一つは、
 半島から直接、日本海を渡
 って北陸・山陰に来るコー
 スで、後者は高句麗・新羅
 系が渡来である。

●人類学的には人骨からの
 比較は出来ないものである
 うか。特に縄文、弥生、古
 墳期の比較検討も必要であ
 る。島根県八束郡・古浦
 遺跡からは弥生時代前期の
 中期の六十体及び人骨が
 発掘された。その特色
 はどうか。

●考古学上では、近年、松
 江市タテチヨウや西川津遺
 跡等からは、大陸に起源を
 求める陶器(とうげん)と
 呼ばれる土器も多数発掘さ
 れているし、先述した大量
 の人骨が発掘された古浦遺
 跡では、土骨も出土してい
 る。

●出雲の西部、簸川郡の長
 大海岸線は厚く砂丘に覆
 われているが、その下には
 半島・大陸との結びつきを
 解く遺跡が埋もれている可
 能性がある。半島・大陸か
 ら人々が渡来したとすれ
 ば、まず最初に住みつく
 なければ川の近くの海岸線で

はなかるうか。
 ●最後に海漂器がたどった
 中国からの道を考えてみよ
 う。水野氏が述べている「
 げしかなかったのもっともは
 動乱、西晋の八王の乱(三
 〇〇〜三〇六)、とくに永
 嘉の大乱(三一一〜三二六
)と五胡の中原侵入による
 混乱期であった」と思われ
 る。その後、に三国呉の
 滅亡、東晋以下に建康政権
 の交替や農民反乱があり、
 さまざまな機会に亡命者
 に、難民たちは不規則な波
 状を描いて東シナ海に回
 出た。遺難や戦乱の回
 避、あるいは逃亡だけでは
 ない、現実に対する失望と
 未知の世界への期待も、ま
 た海外移住の動機であつた
 ろう。近世における欧州
 から自由を求めて新大陸へ
 移住していった人達を想起
 すると、そして、ベトナム
 やカンボジアと、国家の崩
 壊や内部抗争の凄惨さを身
 近かに見てきた。そこでは
 多くの人達が船やボート
 を漕いで国外へ脱出してい
 るのを知っている。

(写真は漂着した海漂器)

まつりと生活(七)

氏神・鎮守・産土神について

神社と呼ばれるものの中
 で、私たちに最も身近な
 のは、氏神・鎮守・産土
 うぶすな」といわれている
 三つです。氏神というのは
 もともと古代社会で、各氏
 族が祀った一族の祭神で
 あります。まず第一は「村氏神」で
 あります。これは村のよう
 な地域社会の守り神であ
 ります。第二の「戸氏神」
 は、個々の家の守り神で
 あります。第三の「門氏神」
 は、上代の氏神に近く、木
 家を中心に一族の者だけで
 の祭りが行われます。
 また、村の鎮守さまとい

なりました。氏族本来の観
 念の他に、地域社会の守り
 のは、氏神・鎮守・産土の
 観念が入り、三つの混合が
 生じてきました。現在では
 それらはおおよそ三つに分類
 できます。

まず第一は「村氏神」で
 あります。これは村のよう
 な地域社会の守り神であ
 ります。第二の「戸氏神」
 は、個々の家の守り神で
 あります。第三の「門氏神」
 は、上代の氏神に近く、木
 家を中心に一族の者だけで
 の祭りが行われます。
 また、村の鎮守さまとい

え、私たちに最もなじみ
 やすいイメージを起こさせ
 るものですが、鎮守とは村
 や寺院・荘園など特定の土
 地や建物を守護する役割を
 も持っており、もともと中国
 の寺院を守るために祀られ
 た伽藍神に由来するもので
 あつたようです。

いまでも、人が、ある土
 地に居住したり、建物を建
 てたりするとき、その土地
 に以前から祀られていた神
 を鎮守として祀る風習が
 あります。これはこの信仰をも
 ちて行われていると言え
 ます。しかし、鎮守の神は

たん一定の区域を鎮める
 神だけでなく、その在地に
 住む人々の守り神とも考え
 られ、今日では、氏神や産
 土神とほとんど同じ意味に
 使われています。

産土神は、ウブスナノカ
 ミといわれ、産は出産、土
 は大地を意味し、その人間
 の生まれた土地の神を言
 います。しかし、この産土神
 も今日では氏神・鎮守とは
 ほとんど同義語となってい
 るのは、前に述べた通りで
 す。

日本人にとって、神は祖
 先神化したものが多く存在
 しています。これは家や同
 族ごとに祀られる神を通じて
 ついて、家族や一族の意識を
 ついて結集させる機能をも
 っています。こうした神に
 対する祭りをを行う度に、家
 門の仲間意識はより深く結
 びついていきます。

あけぼの荘 電話 六二二二六番
 魚屋旅館 電話 六二二二三番
 みなと荘 電話 六二二三五番
 玄海旅館 電話 六二一〇〇番
 高嘉旅館 電話 六二二二二番
 望海荘 電話 六二一八二番
 ニュー千鳥荘 電話 六二一〇六番
 大島屋旅館 電話 六二一五五番
 松風荘 電話 六二二〇二番
 泉館旅館 電話 六二一〇三五番
 玄洋荘 電話 六二二二七番
 川口屋旅館 電話 六二一〇四八番
 勝浦荘 電話 六二二四七番
 はま荘 電話 六二一〇〇番

暑中御見舞申し上げます

玄海国定公園の中心……白砂青松の海水浴場……宗像大社からバス五分……神湊旅館組合
 市外局番 (0940)

あけぼの荘 電話 六二二二六番
 魚屋旅館 電話 六二二二三番
 みなと荘 電話 六二二三五番
 玄海旅館 電話 六二一〇〇番
 高嘉旅館 電話 六二二二二番
 望海荘 電話 六二一八二番
 ニュー千鳥荘 電話 六二一〇六番
 大島屋旅館 電話 六二一五五番
 松風荘 電話 六二二〇二番
 泉館旅館 電話 六二一〇三五番
 玄洋荘 電話 六二二二七番
 川口屋旅館 電話 六二一〇四八番
 勝浦荘 電話 六二二四七番
 はま荘 電話 六二一〇〇番